

■故障を自動でお知らせ機能（自動試験機能）

故障を検知した場合

本警報器は、一定時間ごとに故障をしているかどうかの自動試験を行います。故障が検知された場合、「ピッ、ピッ、ピッ、故障しています。」が1回鳴り、その後、約1分間隔で「ピッ、ピッ、ピッ」が鳴り、このサイクルを約1時間ごとに繰り返します。また、作動ランプ（赤）は約1分間隔で3回連続で点滅します。



故障警報音を止める場合

警報停止（テスト）ボタンを押す、または、引きひもを引くと一時的に（約15時間）故障警報音が停止します。なお、故障警報音停止中も作動ランプ（赤）は約1分間おきに3回連続点滅し続けます。

※故障警報音停止中に、さらに警報停止（テスト）ボタンを押す、または、引きひもを引いた場合、操作後に再度その時点から約15時間停止します。

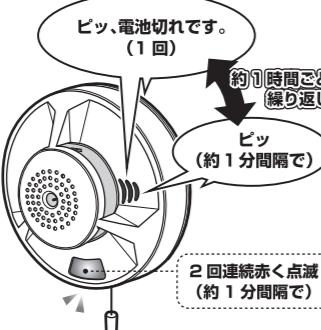


注意 故障状態では熱を正しく感知できず、火災警報作動もいたしませんので、速やかに弊社「お客様相談室」にご連絡ください。

■電池切れを自動でお知らせ機能（電池切れ検知機能）

電池切れを検知した場合

電池寿命（約10年間）が近づくと、電池切れ警報音「ピッ、電池切れです。」が1回鳴り、その後、約1分間隔で「ピッ」が鳴り、このサイクルを約1時間ごとに繰り返します。また、作動ランプ（赤）は約1分間隔で2回連続点滅します。



電池切れ警報音を止める場合

警報停止（テスト）ボタンを押す、または、引きひもを引くと一時的に（約15時間）電池切れ警報音が停止します。なお、電池切れ警報音停止中も作動ランプ（赤）は約1分間おきに2回連続で点滅し続けます。

※電池切れ警報音停止中に、さらに警報停止（テスト）ボタンを押す、または、引きひもを引いた場合、操作後に再度その時点から約15時間停止します。



注意 電池切れ警報音は約1週間前後継続します。電池寿命は約10年間を想定していますが、お客様のご使用環境により短くなる場合があります。

7. お手入れおよび定期点検のしかた

熱感知部の表面にホコリやクモの巣がつくと、熱を感じにくくなりますので、半年に1回以上は以下のようない方法で、お手入れをお願いします。



注意 お手入れの際は、高所作業となり、転倒や落と下などの危険がありますので、足場の確保など安全に作業できるようにご留意ください。

●布で熱感知部のホコリやクモの巣を取り除いてください。

●表面の汚れは、布に水または石鹼水を浸し、よく絞ったもので拭き取ってください。

※なお、シンナー・ベンジンは表面を傷めますので絶対に使わないでください。

●お手入れ後は、「6. 警報器のご使用方法」の「■作動の確認（初回テストおよび定期点検）」にしたがって定期点検を行ってください。



8. 故障かな？と思ったら

テストなどで、故障かな？と思ったときは、修理やサービスの依頼をされる前に、下記の表をご参照のうえ、各種点検および処置をしてください。

状 態	点 検	処 置
火災の熱ではないのに警報音が作動する。または、警報音が鳴り止まない。	警報器の近くで調理の水蒸気や熱などを取り除いてください。	
熱感知部に熱が滞留し、高温のままになってしまふ。	うちわなどで煽いで熱を下げてください。	
作動テスト時、警報停止（テスト）ボタンを押したり、引きひもを引いても作動しない。	専用リチウム電池のコネクタが外れていませんか？	【5. 警報器の取付方法】の②にしたがい、正しく電池を装着してください。
「ピッ」という音が鳴り、作動ランプ（赤）が点滅する。	—	電池が消耗しているので新しい専用電池に交換する必要があります。設置後約10年経過した場合は、警報器本体の交換が必要です。
「ピッ、ピッ、ピッ」音が鳴り、作動ランプ（赤）が点滅する。	—	警報器本体が故障しているので、お買い求めの販売店ないし弊社「お客様相談室」までご連絡ください。
電池を正しく装着しても、新しい専用電池に交換（10年到来前）しても正常に作動しない。	—	警報器本体が故障しているので、お買い求めの販売店ないし弊社「お客様相談室」までご連絡ください。

9. アフターサービス

■保証書

保証書はこの『取扱説明書』に付属しております。必ず販売店名・お買い上げ日などの記入をお確かめのうえ、保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。

■保証期間中に修理依頼される場合

保証期間は、お買い上げ日から1年間です。『取扱説明書』の「8. 故障かな？と思ったら」を参照のうえ、原因をお調べいただき、それでも異常があるときには、保証書記載の販売店もしくは、弊社「お客様相談室」にご連絡ください。

■保証期間経過後に修理依頼されるとき

修理によって警報器の機能が満たされる場合には、ご要望により有料での修理をいたします。

■修理依頼されるときに必要な事項

ご住所・お名前・お電話番号・商品名・商品番号・お買い上げ日・故障または異常の内容。

■修理不能な場合

警報器自体が水や油などの液体に浸かったり、焼損している場合には修理不能ですので、新しい警報器をご購入ください。

■アフターサービス

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点がありましたら、保証書記載の販売店もしくは、弊社「お客様相談室」にお問い合わせください。

10. 廃棄する場合

交換後の火災警報器および電池の廃棄につきましては、各自治体で定められた廃棄方法にしたがってください。

11. 製品仕様

電源	専用リチウム3V電池 (SANYO CR17450E-R、または FDK CR17450E-R)	電池寿命	約10年間 [*] <small>*使用環境により短くなる場合があります。</small>
感知方式	熱式（定温式）	音量	70dB以上/1m（鑑定基準）
試験機能	自動試験機能	寸法	Φ99.37×39mm <small>（取付ベース板を含む）</small>
火災警報音	「ピュー、ピュー、火事です、火事です。」	質量	約118.8g（電池を含む）
故障警報音	「ピッ、ピッ、ピッ、故障しています。」	使用温度範囲	0°C~40°C（結露なきこと）
電池切れ警報音	「ピッ、電池切れです。」	設置場所	壁面・天井面



日本消防検定協会鑑定品

CENTURY

取扱説明書

品番：SG-FHV
保証書つき
音声式 ボイスねつの見張り番

住宅用火災警報器

- 定温式・熱式・電池方式
- 自動試験機能付
- 警報音・音声警報式



本警報器をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用の前に必ず取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。なお、この取扱説明書は保証書も兼ねていますので、大切に保管してください。

FHV-C-M-02Ad1

■付属品

※万一、下記付属品が揃っていない場合は、弊社「お客様相談室」までご連絡ください。

- 取扱説明書兼保証書（本書）……………1枚
- 設置日より10年後お知らせサービス用ハガキ……………1枚
- 取付用ネジ……………2本
- 石膏ボード用取付プラグ……………2本
- 専用リチウム3V電池……………1個

1. ご使用になる前に

- 本警報器は、熱を感じて作動するもので、火災自体を防止するものではありません。火災などによる損害につきましては責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- 本警報器は、住宅用火災警報器として日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品ですが、消防法に規定されている自動火災報知設備の代用はできませんので、それらの用途にはご使用いただけません。
- 本警報器を正しくお使いいただくために、注意事項の表示は下記のようになっていますので、内容をよく理解してから取扱説明書をお読みください。

※誤った設置や取り扱いによる危害や損害の程度を以下の表示で示しています。

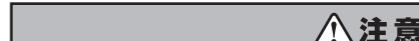
	この表示を無視して取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合や、警報機能の一部に重大な悪影響を与える可能性がある場合を表しています。
	この表示を無視して取り扱いを誤ると、使用者が軽症などの傷害を負うないし、物質的損害のみの発生が想定される場合や、警報器に悪影響を与える可能性がある場合を表しています。

2. ご使用上の注意



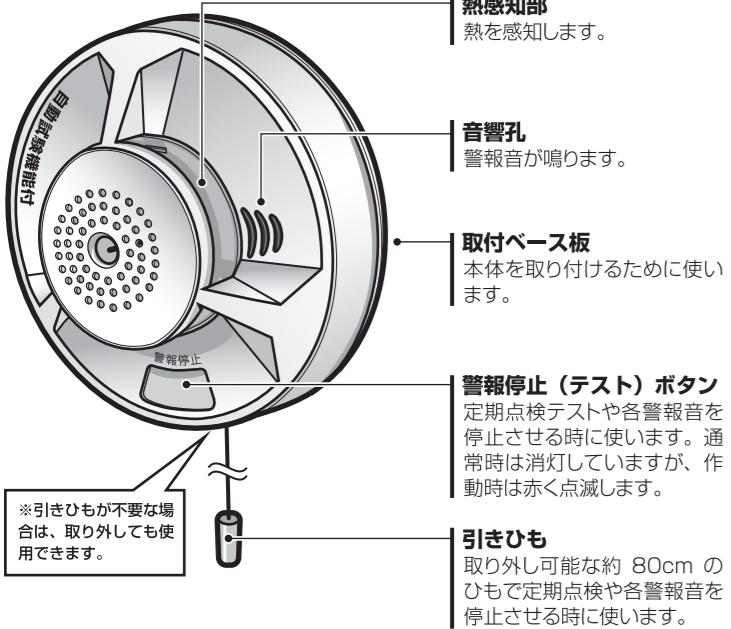
- 本警報器は絶対に分解・改造・異物の混入や挿入をしないでください。
- 本警報器を落とさせたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 本警報器を設置する際は、必ず警報停止（テスト）ボタンを押して音声が聞こえる範囲を確認し、必要に応じて設置場所を変更するか、設置箇所を増やすなどの対応をとってください。
- 本警報器はガス爆発や薬品による爆発的な火災などの場合は、作動しないことがありますので注意してください。
- 下記の場合は、火災が発生し火災警報音・音声が警報しても気付かない、あるいは、避難できないことがありますので特に注意してください。

 - イヤホンをつけたり、交通・T.V.・ステレオなどで騒音が大きい場合。
 - 過度な飲酒や、薬の服用後に就寝した場合。
 - 寝たきりのご老人や、幼児だけでの留守番時や、退避経路に荷物がある場合。



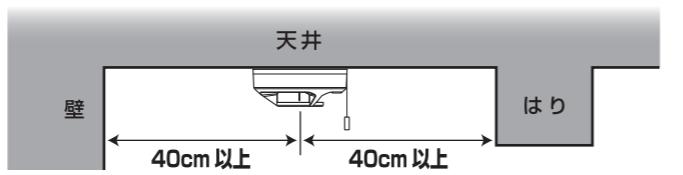
- 本警報器は室内専用ですので、屋外でのご使用はおやめください。
- 本警報器に耳を近づけ警報音・音声を聞くかないでください。聴力障害の原因となる場合があります。
- 本警報器は設置場所の近くでの熱に作動しますので、火災発生場所から遠い設置場所では作動しない場合があります。
- 本警報器は火災以外の熱（調理による熱など）により誤作動することがあります。
- 必要以上の力で引きひもを引いたり、警報停止（テスト）ボタンを押さないでください。落下や故障の原因となります。
- 1週間前後留守にした後は必ず正常作動するか定期点検を行ってください。

3. 各部の名称とはたらき



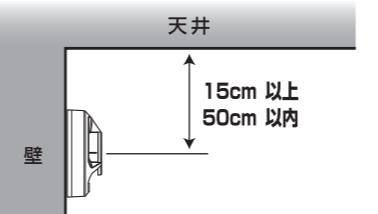
天井に取り付ける場合

壁から 40cm 以上離した位置に取り付けてください。また、はりがある場合には、はりからも 40cm 以上離した位置に取り付けてください。



壁面に取り付ける場合

天井より 15cm から 50cm の範囲内に取り付けてください。



※ 住宅用火災警報器の設置および維持基準については、政省令で定める基準にしたがい、市町村条例で定められています。各市町村により設置場所が異なる場合がありますので、各市区町村が定める設置場所をご確認ください。

4. 警報器の取付場所

警報器の取付場所

□台所・調理場・ダイニングキッチンなど

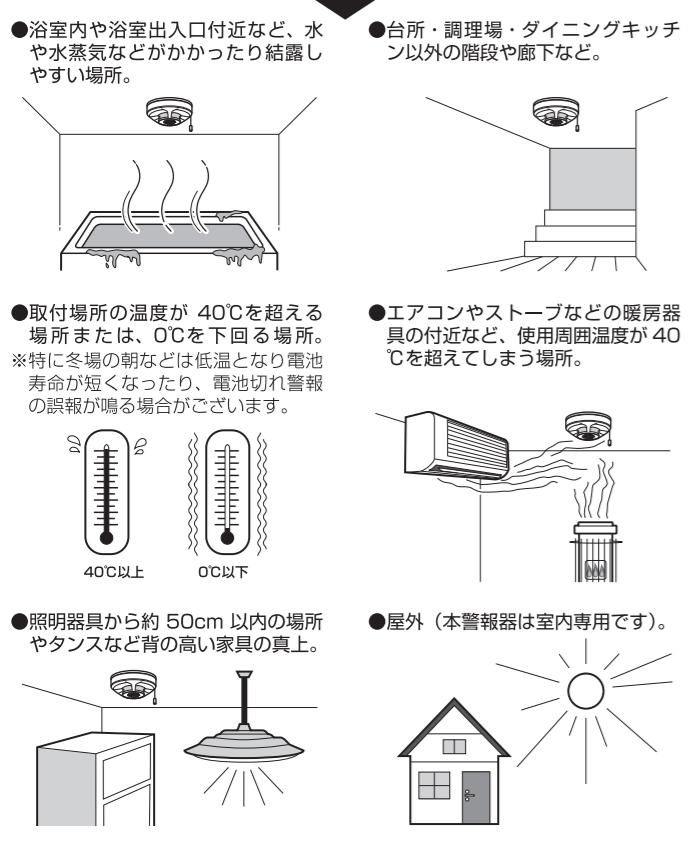
※熱式は、大量の湯気や煙などが出る台所など、お住まいの各自治体の条例により煙式に代わって設置が認められている場所に取り付ける場合に適しています。

警報器の取付位置

- 警報器の警報停止（テスト）ボタンや、引きひもが操作しやすい位置に設置してください。
- 照明器具から約 50cm 程度離れた位置に設置してください。
- 換気扇やエアコンの吹出口から 1.5m 以上離れた位置に設置してください。

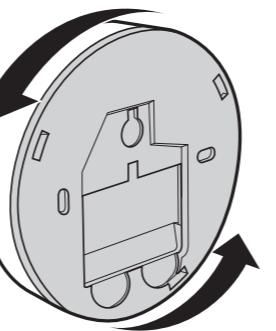
注意

次の場所への設置は火災による熱を正常に感知できないため誤作動の原因となります。

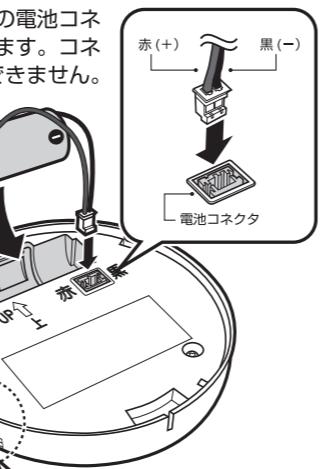


5. 警報器の取付方法

- ① 取付ベース板を左方向にまわして、警報器本体から外してください。



- ② 付属する電池のコネクタを警報器本体の電池コネクタに奥まで差し込み、本体に収納します。コネクタには端子があり、逆向きには接続できません。無理に逆接続するとコネクタがショートし、電池が加熱するなど、故障の原因となります。また差し込む際にはドライバーなど金属製のものは使用しないでください。



- ③ 設置した年月日を警報器本体の側面に油性ペンなどで記入してください。

設置年月日
年 月 日

弊社では、本警報器をお買い上げいただいたお客様を対象に、「設置日より 10 年後お知らせサービス」を実施いたしております。

お手数ですが、弊社本警報器をお取り付けになった設置年月日を付属するハガキ（恐れ入りますが、50 円切手をお貼りください）で返信していただいた場合、責任をもってお客様に E-mail・お電話・おハガキのいずれかにて、設置年月日より 10 年が到来する前に、お知らせをさせていただきます。なお、お住所など変更事項がある場合は、弊社「お客様相談室」までご連絡ください。

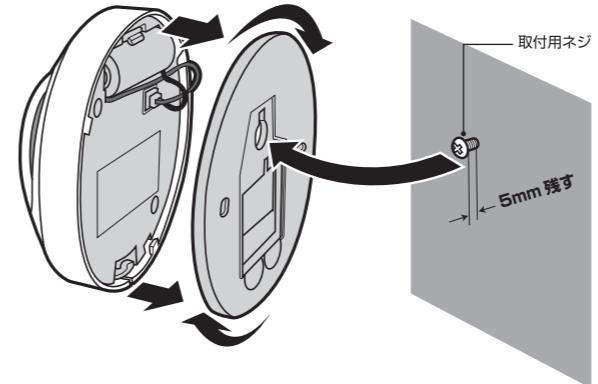
※消防庁通達の「消防安第 16 号」により、すべての住宅用火災警報器は、10 年を目途に交換する必要があります。また、付属する専用リチウム電池の電池寿命は約 10 年間であり（お客様の使用環境によく短くなることがあります）、電池を交換しても警報器本体の各部品の寿命により、警報器本体自体の交換が必要となります。

- ④ 下記参照のうえ、各取付場所に取り付けを行ってください。

壁面に取り付ける場合

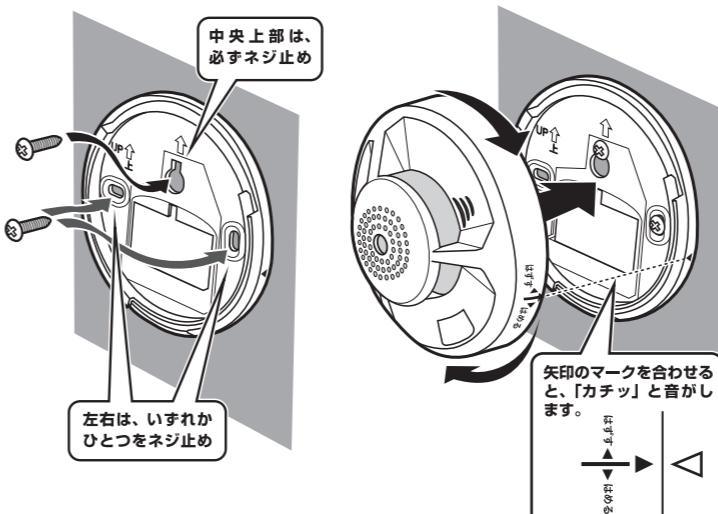
引掛けフック穴を利用した取り付け

取付ベース板を右方向にまわして、警報器本体に装着してください。次に補強材などが通っている平らで丈夫な壁面（天井面より 15cm ~ 50cm 範囲内）に、付属の取付用ネジ 1 本を約 5mm 残すように、途中まで締め込んでください。警報器本体に装着した取付ベース板の引掛けフック穴を約 5mm 残したネジに引掛け、警報器本体と壁面がしっかりと固定されるように取り付けてください。



取付ベース板を利用した取り付け

補強材などが通っている平らで丈夫な壁面（天井より 15cm ~ 50cm 範囲内）に、取付ベース板を下左図のように、中央上部のネジ穴（引掛けフック穴）は取付用ネジ 1 本で必ずネジ止めし、左ないし右のいずれかのネジ穴を、残りの取付用ネジ 1 本でネジ止めし、2箇所をネジで強く締め込んでください。次に取付ベース板右下部にある矢印マークと警報器本体を時計まわりで、上から下の方向に「カチッ」と音がするまで、まわして装着してください。



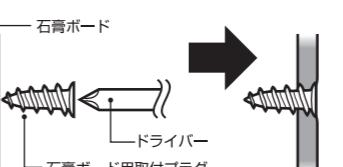
天井面に取り付ける場合

天井面に警報器を取り付ける場合は、前述の「取付ベース板を利用した取り付け」を参照していただき、取付ベース板を天井の 2 箇所に、付属の取付用ネジ 2 本（中央上部のネジ穴は必ず、左ないし右のいずれかのネジ穴）で強く締め込んで固定させた後、警報器本体を右方向にまわしながら、「カチッ」と音がするまで、矢印マークが合うよう装着してください。なお、天井に取り付ける場合の位置などは、「4. 警報器の取付場所」の図を参照してください。

壁面ないし、天井面の石膏ボードに取り付ける場合

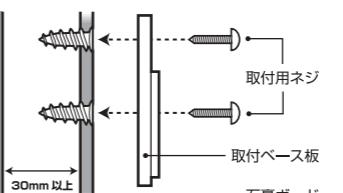
- ① 石膏ボードに、石膏ボード用取付プラグを取付ける。

ドライバーを使い、先端が食い込むくらいに、しっかりと突き刺してください。



- ② 取付用ネジ 2 本で取付ベースを取り付ける。

前述の「取付ベース板を利用した取り付け」を参照してください。なお、石膏ボードと内部空間の間隔は 30mm 以上必要です。

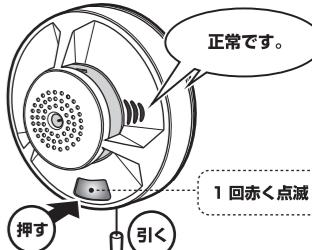


6. 警報器のご使用方法

■ 作動の確認（初回テストおよび定期点検）

テスト機能を使って確認する場合

警報停止（テスト）ボタンを押すか（約 2 秒間未満）、引きひもを引きると（約 2 秒間未満）「正常です。」と 1 回音声が鳴り、作動ランプ（赤）が 1 回点滅すれば正常です。



火災警報音を鳴らして確認する場合

警報停止（テスト）ボタンを押し続けるか（約 2 秒間以上）、引きひもを引き続けると（約 2 秒間以上）火災警報音「ピュー、ピュー、火事です、火事です。」が鳴り、作動ランプ（赤）が連続点滅すれば正常です。警報停止（テスト）ボタンまたは、引きひもをはなすと作動は止まります。



または、ドライヤーをお持ちであれば。。。

実際に熱を入れて確認する場合

火災警報器の熱感知部に、ドライヤーの熱風をかけると、熱を感じた結果、火災警報音を鳴らして確認する場合（を参照）。なお、熱感知部に熱が滞留し、高温のままだと、火災警報音が鳴り続けますので、うちわなどで煽いで熱を下げてください。



火災警報機能

火災の場合

火災により熱が発生し、火災警報器の熱感知部が熱を感じると、火災警報音「ピュー、ピュー、火事です、火事です。」が鳴り、作動ランプ（赤）が連続点滅します。火元を確認し、119 番へ通報するなど、適切な処置をするとともに、火災状況に応じて速やかに避難してください。



火災警報音を止めるとき

火災による熱が無くなれば、火災警報音は自動的に停止するとともに、作動ランプ（赤）も消灯します。警報停止（テスト）ボタンまたは引きひもを操作すると、火災警報音と作動ランプ（赤）は一時的に約 5 分間停止します。熱感知部の内部に熱が残っている場合は、約 5 分後に再び火災警報作動をします。

以下の理由により、火災以外でも火災警報作動をする場合がございます

- コンロ・ストーブ・エアコン・レンジなどの高熱を感知したとき。



室内の換気など火災警報の誤作動の原因を取り除けば、火災警報作動は止まります。なお、頻繁に上記のような場合があると、電池の寿命が短くなることがあります。